

3月定例記者会見 会見録

平成31年(2019年)3月14日(木) 11:00～11:28 庁議室

市長報告

3月定例記者会見に当たり、私から報告をさせていただきます。

はじめに、「つくば市子ども未来プラン」の策定についてです。つくば市では、昨年9月にSDGs未来都市計画を策定し、「誰一人取り残さない」という包摂の精神に基づく様々な取組を進めています。市内の就学援助や生活保護の対象となっている児童生徒は平成30年度で1,219人に上り、所得水準によって学校以外での塾等の学習環境に違いが存在する傾向が見られます。そのため、学習支援等、子どもたちが安心できる居場所づくり等の施策の充実を図る必要があることから、中長期的な視野に立ち部局横断的に実行する「つくば市子ども未来プラン」を策定しました。プランに基づき子どもたちを支援していくとともに、つくば市子ども・子育て支援プラン等、他の市の支援事業と連携して取組を進めます。

次に、「つくば保育の質ガイドライン」の策定についてです。つくば市においては、人口増加に伴い、保育需要が増大し保育ニーズも多様化しています。市内のどの保育施設においても質の高い保育を受けられるよう、保育に関わる一人ひとりが、職員に求められる資質や子どもの権利、安全管理等に共通理解を深め、相互に連携・協力して取り組んでいく必要があることから、このたび「つくば保育の質ガイドライン」を策定し、本年4月に施行します。ガイドラインでは、全ての保育関係者が、日々の保育の振り返りを始め、保育現場での環境構成や検証、研修などに活用できるようチェックボックス形式にしており、保育士や事業者、保護者や地域等の関係者に周知していきます。

次に、「つくば市スポーツ推進計画中間年度見直し版」の策定についてです。市では、2014年3月に「つくば市スポーツ推進計画」を策定し、スポーツの振興に取り組んでいるところですが、本年度は、この計画の中間年度にあたることから、より一層のスポーツの推進を図るための見直しを行いました。「スポーツで“つながる”まちつくば」を実現するために、4つの基本戦略の下に15の施策を定め、施策の推進のために取り組む事項などを決めました。

次に、「つくば市リサイクルセンターの開所式」と「プラスチック製容器包装の分別収集開始」についてです。資源ごみをリサイクルするために建設を進めていたリサイクルセンターが、本年4月から供用開始となります。リサイクルセンターの完成により、ごみ焼却施設、し尿処理場、再資源化施設の3つのごみ処理施設が同じエリアに揃いました。すでにご案内しているとおり、このエリアの名称は、市民公募により選ばれた「つくばサステナスクエア」という名称になります。4月3日に、名称募集において最優秀賞及び優秀賞を受賞された方

などをご招待して「つくば市リサイクルセンターの開所式」を行います。また、リサイクルセンターの開所に合わせて、4月からプラスチック製容器包装の分別収集を始めます。

これまで「燃やせるごみ」として処理してきた、このような「たまごパック」、「ペットボトルなどの外装フィルム」、「発泡スチロール」など、プラマークの表示があり、汚れていないものが対象となり、各地区とも月2回の収集を行います。分別収集しリサイクルすることで、資源循環を推進し、持続可能なまちづくりを進めていきます。ご協力をお願いします。

次に、叱られてしまいますが、事後報告です。先月の2月9日から11日まで、青森県で開催されたG1サミットに参加しました。日本版ダボス会議とも呼ばれるG1サミットは、大臣やノーベル賞学者、名だたる企業の経営者、オリンピック選手・文化人など文字通り日本のリーダーが集まり、日本と世界の課題解決に向けた議論をし、行動する会議です。

そこで、40歳以下の世界をより良く変えるための活動をしているリーダーに与えられる「G1新世代リーダー・アワード」を政治部門で受賞いたしました。政治部門でこれまで受賞したのは、福岡市の高島宗一郎市長をはじめ、小泉進次郎衆議院議員など名だたる活躍をしているみなさんばかりで、このような賞に選んでいただいて、とても光栄に思っています。

最後に、3月12日にイタリアのローマで開催されたネット投票イベント「E-Vote! Towards e-voting, democratic innovation」にビデオ出演し、つくば市が行った「ブロックチェーンとマイナンバーカードを使ったネット投票」について紹介しました。

今回、イタリアの下院議員でありイベントの主催者代表であるジュゼッペ・ブレシア氏から、ネット投票の世界的先進事例であるつくば市の取組について紹介して欲しいとの話があり、参加したものです。

このイベントでは、エストニアの事例をはじめ、いろいろな事例やデモが紹介され、活発な議論が行われたそうです。この後、当日の様子等を動画でご紹介しますので、ご覧ください。

これからも、「世界のあしたが見えるまち」の先進的な取組を、世界へ積極的に発信していきます。私からの報告は以上です。

(庁議室前のモニターで、動画1分程度流す)

質疑応答

■こども未来プランについて

記者

つくば市こども未来プランについて市長にお伺いいたします。このプランの特徴は何であるとお考えになっているか。それから、このプランの実行を通してつくば市にどのような子ども世界を実現したいと思っているのか教えてください。

市長

概要のペーパーを一枚お渡していますが、大きく、居場所支援と学習支援を組み合わせた形のものというのが最大の特徴であると思っています。とりわけ踏み込んで、塾代の補助というものも考えております。それを進める際にやはり重要になるのは市民の参加というものをその中心に据えていることでもあります。なかなか行政でやりきることができない子どもの支援というものを、地域のボランティアの皆様を募って説明会を、去年も既に開催をしていますけども、非常に多くの方が何かをしたい、支援をしたいという思いを持ってくださいますので、そういう皆様に対して、その参加の機会を作っていくということが、大きな1点目。

それと合わせて、何となくやるのではなくて、きちんとデータをとって進めていこうということがあります。学習支援をして良かったねとか、居場所を作って良かったねとか、それもすごく重要なことだと思いますけども、やはり科学のまちですのできちんと非認知能力ということをここでは書いてありますけども、自己肯定感であったり様々な能力を測定していきながら、どういうことが必要になっていくかということを示していくと。更に、どうしても子どもの貧困の問題というのは親が責められるケースが多いんですね。親は何をやってるんだとか、母親が遊んでいるんじゃないかとかそんなことを言われてしまうことが多いのですが、誰かを悪者にしても全く解決しない問題ですので、保護者の支援というものにも力を入れています。経済的に困難を抱える保護者に対して高等職業訓練の促進給付金、保育の資格であったり、介護の資格であったり様々な資格を取るための活用をするために市独自で給付をプラスします。そういったことを通じて、点での支援ではなく面的な支援を行っていくというのがこども未来プランでして、目指していることは、ここに一言書いてあるんですが、文字通り安心できる居場所と学習環境をつくって、つくばの子どもを育てていく、私どもが目指しているのは親の所得によって子どもまで、親の経済格差が子どもの学習格差に、あるいは教育環境の格差につながってはいけないという思いでやっていますので、その連鎖を断ち切って、すべてのつくばの子どもが安心できる居場所を手に入れて学びを進めていけるような環境を作っていきたいと思っています。

記者

このプランの特徴は達成目標にきちんと数値を埋め込んでいることかなと思っているんですが、この5つの数値目標のうち、市長があえて重視している注目されている数値があるとしたら挙げていただけますか。

市長

当然、どれが優先順位がというのはないですし、どれも重要だからこそ今回5つにしたわけですが、子どもの発達という意味では、1番の自己肯定感というのを高めていくというこ

とが非常に意義のあることだろうと思っています。これは世界中どこの調査でも同じような傾向があるんですが、やはり学年が上がるにつれて自己肯定感が下がっていったという傾向があります。それをそうならないようにしていく、そして、経済状態によってその自己肯定感というのは決して影響を受けないようにしていく必要があると思っていますので、この数値には、私の思いとしては注目をしています。

■つくば保育の質ガイドラインについて

記者

保育の質のガイドラインについて伺いたいんですけども、このガイドラインの中でもありますように、保育の質の向上には保育士の人数確保が重要だというアンケート結果もありますけれども、市は助成などを出して保育士の確保に努めていますけれども、未だに保育士が不足しているという声はよく聞きます。今後ガイドライン策定に合わせて、例えば保育士の確保に向けて、市長どのようにお考えになっていらっしゃるのか、そのあたりについてお聞かせください。

市長

保育士の確保が最重要であることは、変わりがありません。つくば市は、当時としては先進的だった月3万円の補助を民間の保育士に出していますが、今、多くの自治体がそういう取組を進めていく中で、ただ、実際3万円まで出している自治体は近隣ではあまりありませんので、何とか保っているかなという感じはしていますが、つくば市の場合は人口増加も進んでいて、こどもの絶対数が多いという状況にありますので、よそと同じことをしてはなかなか追いつかないなということは正直なところ思っているところではあります。ただ、この3万円の補助、家賃補助については、様々なアンケートから一定の効果があることは間違いないと考えておりますので、まずは引き続きこの施策を進めていくということをきちんととしていかなければいけないと思っています。

記者

その際、このガイドラインなんですけれども、今後どのように起用される予定でしょうか。位置づけとしては、例えばこれによって認可のときの基準にするとか、そういった利用の仕方とかはあるのでしょうか。

市長

一義的には、このガイドラインは保育者の皆さんに日々の保育の質を高めていくために活用していただきたい。そのためにチェックリストを作ったものであります。行政がどれだけ保育の質とか抽象的な話をしても、現場レベルで実践されなければ何も変わりませんので、

これをすべての保育園に配って、その日の振り返りだったり常日頃見返していくような形で使っていただきたいというのが1点。それから、保護者の皆さんにもお配りをする事によって、つくばの保育というのはこういうを目指しているんですよということをご理解いただき、そして、こどもは決して保育園だけで育てるわけではありませんし、保育に対して様々な観点からご協力いただいたり、こういうところを目指しましょうねというところを共有するというのの一つ大きなところなんではないかなと思っています。現在のところ認可について、これを利用するしかないということは考えておりませんが、当然これからつくば市で行う保育というのは、このガイドラインに沿ったものになってほしいというようには思っております。

記者

このようなガイドラインを策定している自治体というのは県内にはあるのでしょうか。

市長

県内では把握している限りではありませんが、全国では世田谷区が事例としてはあると思います。県内にありますか。

こども部長

県内では初めてになります。それから今回は参考にした自治体ということで、世田谷区、松戸市を参考といたしております。

■こども未来プランについて

記者

こども未来プランなんですけども非認知能力の判定というのは、どこかの大学と協力するのかそれとも市の単独で調査項目を設定して進めるのか。

保健福祉部長

大学というより、こういうことを他でもやっている事業者がありますので、そこに委託することを想定しております。

■市の財政について

記者

昨日、県の市長会が県の町村会と共同で茨城県に対して申し入れ書の提出を副知事に対していたしました。内容は茨城県が今回の予算で打ち出した多子世帯の0歳児・1歳児・2歳

児の保育料を無料化するという事業でございます。これに対して市長会が町村会と共同で市町村に財政負担が生じる場合は、事前の協議を行えるよう要望するという内容でございます。この件については五十嵐市長もご存じかと思うのですけれども、所感を伺えれば幸いです。

市長

要望書に書かれている通りでありますので、その見解が全てだと思いますが、市町村の財政負担が生ずる場合は調整をしていただきたいということですね。

記者

こういったことが市町村と県の関係でしばしばあることなのでしょうか。

市長

しばしばあることかどうかわかりませんが、どうなのでしょうね。そんなにはないことなのかもしれませんけども、だからこそ市長会として申し入れを行ったのではないかと思います。

■県立高校改革プランについて

記者

県庁が打ち出した県立高校改革プランについて教育長はどのような評価・感想をお持ちでしょうか。

教育長

具体的には中高一貫校がない地域に中高一貫学校を作るという件でしょうか。

記者

そうですね。

教育長

茨城県の方針で、今後 3 年かけて今まで中高一貫教育を行っている学校がない地域に中高一貫校を造っていくと聞いておりますけれども、そのことがつくば市にどのような影響を与えるかというご質問とすれば、あまり大きな影響を受けることはないと考えています。

記者

五十嵐市長はどうですか。

市長

私どものスタンスとしては、これまでも知事に対して県立高校をつくば市に造っていただきたいという要望を出しておりますので、ぜひその要望についてこれからも継続してお願いをしていきたいというのが私どもの現在の段階です。

■学校建設の予算について

記者

新年度予算で非常に学校建設の負担予算がかなりかかっているということが分かったのですけれども、改めてこどもが増えるということに対する市の予算に対する影響をどうお感じになっているのかということが1つです、県立は難しいのだけれども市立の高校を造って欲しいという確たる紙ベースの話ではなくてそういう声を聞くのですが、それについてどういう風に考えていらっしゃいますかお尋ねしたいのですが。

市長

まず大前提としてこどもが増えるということは非常に喜ばしいことでもあります。やはりこどもを育てるということは本来素晴らしいことだと思っておりますし、そういう場所につくば市を選んでいただけるということは非常に嬉しいことだと思っておりますし、そういう場所であり続けたいという風に思っております。

財政面からいえば、今ご指摘ありましたように、例えば保育士の確保の問題もそうですし、学校施設が足りないという問題もあります。市の財政に与える影響というのも当然ありますし、国もやはり少子高齢化というのは間違いなく今日本の最大の課題でありますので、こどもの数が増えている自治体に対してはぜひ積極的なご支援をいただきたいというのがその財政負担に対する所感です。

市立の高校ができる事は今の段階でコメントをする段階にないかなと思いますけれども、やはりまず今小中学校の予算を見ても分かる通り、建設や対応で手いっぱいになっているし、どこにその学校を造るかということ大きな議論をしている中で、そこが整わないうちに市立の高校というのは議論にもまだ入れない段階かと思っております。

■新元号にまつわるイベントについて

記者

平成がもうすぐ終わろうとしていて、4月1日に新元号が発表され、5月には新しい元号になるのですが市の方では何かイベントとか行事とかを予定されていますか。

市長

多分ないと思います。

■サステナスクエアについて

記者

リサイクルセンターの開所式、そしてプラスチックの分別という話があったかと思いますが、ごみの総量に占める背景ですとか、このプラスチック分別の施設というのが県内で何番目になるのかとか、そのあたりをご説明いただけるとありがたいのですが。

生活環境部長

つくば市のリサイクル率は約 18% 台でして、県の平均の 22% と比べますと若干低い状態になっています。総量に占める割合がそういう状況ですので、これを改善するためのリサイクルセンターと考えていただいても結構です。さらに、県内では 29 番目の施設になります。

(終了)